

## 1-9 フランス語学フランス文学

### 研究・教育活動の概要と特色

当専攻分野はフランス文学・フランス語学を中心に、フランス語を窓口とするフランス語圏全般の文化・歴史を対象とする研究活動を行っている。阿部宏教授はフランス語学、今井勉教授、ヤン・メヴェル准教授、黒岩卓准教授、島貫葉子助教はフランス文学が専門であるが、言語における主観性概念・日仏英対照言語学（阿部）、ヴァレリーの未刊草稿研究・象徴主義・クレオール文化（今井）、ベケット研究・デュラス研究・文学におけるメランコリー・フランス地域文学・フランス文学における日本の表象（メヴェル）、フランス中世文学・演劇・ルネッサンス文学・フランス語史（黒岩）、フランス語教育学（島貫）などその関心領域は多岐にわたっている。いずれにおいても緻密なテキスト読解、また文献資料や実例の具体的検討にもとづく堅実な研究態度は、講座創設以来の伝統である。

学部卒業の要件として卒業論文の執筆を義務づけており、学部教育においてはフランス語テキストを含む諸文化表象の読解のしかたを基礎から学ばせると同時に、各々の感性を通じて読み取ったものをいかに論理的、説得的に表現するかについて、その方法論を養うことを主眼とした授業も開講している。大学院では、少人数制の利点を活かし、前期課程において、テキストの精読、参考文献の活用法など、専門研究の基礎を学習させる。同時に、文学の院生も語学研究の基礎を、語学の院生も文学研究の基礎を学び、文学・語学について総合的な知識を身につけるよう指導している。後期課程においては、論文執筆や研究発表の実践的指導を綿密に行っており、全国学会の学会誌への投稿や学会発表を奨励している。また、当専攻分野出身の研究者と院生を主たる会員とする学会誌を刊行しており、院生はここに積極的に論文執筆を行っている。学部から博士後期課程を通じて、生きたフランス語の表現能力を養うためフランス留学を奨励しているのも当専攻分野の大きな特色である。

### I 組織

#### 1 教員数（2011年9月末現在）

教授：2

准教授：2（含フランス人教員1）

講師：0

助教：1

教授：阿部 宏，今井 勉

准教授：ヤン・メヴェル，黒岩 卓

助 教：島貫葉子

## 2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
29	0	8	3	0

## 3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	8	1	0
08	7	5	1
09	7	3	1
10	7	2	2
11	0	0	0
計	29	11	4

\* 2011年度は、9月末までの数字

## 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	0	0	0
08	1	0	1
09	1	0	1
10	0	0	0
11	0	0	0
計	2	0	2

\* 2011年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

島貫葉子，2008 年度，Un << lyrisme critique >> : les formes, métamorphoses et mises à l'épreuve du lyrisme dans la première trilogie de Samuel Beckett

審査委員：教授・阿部宏（主査），准教授・ヤン・メヴェル，准教授・今井勉，准教授・岩田美喜

宮本直規，2009 年度，フランス語の二次的述定における現在分詞—動詞性と形容詞性の混交-

審査委員：教授・阿部宏（主査），教授・後藤斉，准教授・ヤン・メヴェル，准教授・今井勉

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	2	0	2	0	4
08	3	1	0	0	4
09	4	1	0	1	6
10	5	1	0	0	6
11	4	0	0	0	4
計	18	3	2	1	24

\* 2011 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	1	0	0	1
08	0	2	2	1	5
09	0	5	0	1	6
10	1	1	1	0	3
11	1	3	0	0	4
計	2	12	3	2	19

\* 2011 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

宮本直規(DC)「前置型現在分詞節の自立性」, 『フランス文学研究』第 28 号(東  
北大学フランス語フランス文学会), pp. 55-69, 2008 年 2 月.

- 宮本直規 ( D C ) 「"voilà", "il y a" に後続する現在分詞節」, 『フランス文学研究』  
第 29 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp. 36-50, 2009 年 2 月 .
- 宮本直規 ( D C ) 「現在分詞節の意味上の主語について」, 『フランス文学研究』  
第 30 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp.33-50, 2010 年 2 月 .
- 島貫葉子 ( 専門研究員 ) 「Affectation d'impassibilité et « lyrisme critique » dans la  
première trilogie de Samuel Beckett」, 『Nord-Est』 ( 日本フランス語フランス  
文学会東北支部会報 ) 第 2 号 , pp. 77-87, 2009 年 9 月 .
- 荒川恒治 ( D C ) 「形容詞「深い」"profond" の抽象的意味の分析」, 『フランス文  
学研究』第 29 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp. 21-35, 2009  
年 2 月 .
- 荒川恒治 ( D C ) 「形容詞 *profond* の具象的意味と抽象的意味の分析とその関連  
性」, 『文化』第 73 巻 3・4 号 ( 東北大学文学会 ) , pp. 62-82, 2010 年 3 月 .
- 廣松勲 ( D C ) 「フランス語圏旧植民地におけるジェンダー - カリブ海域文学に  
おけるジェンダー表象 - 」, 『男女共同参画社会の法と政策 / ジェンダー  
法・政策研究センター年報』第 4 号 ( 東北大学 21 世紀 C O E プログラム「男  
女共同参画社会の法と政策」出版委員会編集 ) , pp. 157-167, 2007 年 4 月 .
- 廣松勲 ( D C ) 「Remémoration créative dans *Au bout d'enfance* de Patrick Chamoiseau」,  
『フランス文学研究』第 28 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp.  
41-54, 2008 年 2 月 .
- 廣松勲 ( D C ) 「フランス語圏カリブ海域におけるクレオール文学運動の問題機  
制」, 『ポストコロニアル批評の諸相』 ( 東北大学若手研究者萌芽研究育成  
プログラム採択課題 : 「ポストコロニアリズムのテキストにおけるアイデン  
ティティ表象の比較文化史的研究」 ) , 東北大学出版会叢書 , pp. 233-263 ,  
2008 年 3 月 .
- 廣松勲 ( D C ) 「Identité migrante ou impossible dans *Les urnes scellées* d'Émile  
Ollivier」, 『フランス文学研究』第 29 号 ( 東北大学フランス語フランス文  
学会 ) , pp. 1-20, 2009 年 2 月 .
- 廣松勲 ( D C ) 「ケベック州のフランス語について」 ( 発表原稿の加筆訂正版 ) ,  
第 58 回東北大学フランス語学フランス文学研究会 ( 於東北大学 ) , 2009 年  
6 月 , (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/French/document/Quebec.pdf>) .
- 廣松勲 ( D C ) 「Remémoration créative de Patrick Chamoiseau - La description de la  
« non-espace » dans *Un Dimanche au Cachot*」, 『フランス語フランス文学研究』  
第 95 号 ( 日本フランス語フランス文学会 ) , pp. 141-156, 2009 年 9 月 .

- 廣松勲 ( D C ) 「 La narration de la « non-histoire » dans *Mère-Solitude* d'Émile Ollivier », 『フランス文学研究』第 30 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp. 15-32 , 2010 年 2 月 .
- 廣松勲 ( D C ) 「 Écrire l'oralité en péril –Stratégie d'autoreprésentation chez Patrick Chamoiseau – », 『フランス文学研究』第 31 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp. 20-34 , 2011 年 2 月 .
- 廣松勲 ( D C ) 「 Éxil et « non-lieu » – La description spatiale dans *Passages* d'Émile Ollivier 」 ( 亡命と「非 - 場所」 - エミール・オリヴィエの『パッセージユ』における空間記述 - ) , 『Nord-Est』 ( 日本フランス語フランス文学会東北支部会報 ) 第 3 号 WEB 版 , 2010 年 6 月掲載 ( <http://genesis.hss.iwate-u.ac.jp/sjllf-tohoku/bull/> ) ; 第 3-4 号合併号 , pp. 33-47 , 2011 年 5 月 .
- 深井陽介 ( D C ) 「 L'écriture du rêve dans *Une saison en enfer* 」 ( 『地獄の季節』における夢のエクリチュール ) , 『日本館多分野研究会ノート』第 3 号 ( パリ国際大学都市日本館多分野研究会 ) , pp. 9-25, 2009 年 .
- 深井陽介 ( D C ) 「 Le concept de l'Histoire dans « Mauvais sang » 」 ( 「悪しき血筋」における歴史概念 ) , 『フランス文学研究』第 30 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp. 3-14, 2010 年 2 月 .
- 深井陽介 ( D C ) 「 La polyphonie de « Délires I – Vierge folle » 」 ( 「錯乱 I – 狂った処女」における多声性 ) , *Rimbaud Vivant*, No 49, pp. 55-72, juin 2010.
- 深井陽介 ( D C ) 「 La polyphonie de Rimbaud 」 , thèse de doctorat, Université Paris 4, soutenue devant un jury présidé par André Guyaux et composé de Dominique Combe, Jean-Nicolas Illouz, Michel Murat, le 18 mars 2011.
- 上田督 ( D C ) 「 『告白』における身体言語への意志」 , 『フランス文学研究』第 31 号 ( 東北大学フランス語フランス文学会 ) , pp.1-19 , 2011 年 2 月 .
- 翠川博之 ( 専門研究員 ) 「サルトル演劇に見るモラルの研究」 , 平成 20 年度 ~ 平成 22 年度科学研究費補助金 ( 基盤研究(C) ) 研究成果報告書 ( 研究課題番号 20520275 ) , 140p., 2011 年 3 月 .

## ( 2 ) 口頭発表

- 宮本直規 ( D C ) 「提示表現と共起する現在分詞節」 , 第 5 回東北フランス語研究会 ( 於東北大学 ) , 2008 年 9 月 6 日 .
- 島貫葉子 ( D C ) 「Les formes, métamorphoses et mises à l'épreuve du lyrisme dans la trilogie de Samuel Beckett - lyrisme et souffrance -」 , 「Angela Moorjani 氏講演会」 ,

- 日本サミュエル・ベケット研究会主催(於早稲田大学),2008年3月22日.  
島貫葉子(D C)「サミュエル・ベケットの小説三部作におけるリリスムの諸相—  
リリスムと白いエクリチュール—」,日本フランス語フランス文学会東北支  
部大会(於福島大学サテライト),2008年11月29日.
- 島貫葉子(専門研究員)「サミュエル・ベケットの“リリスム・クリティック”—  
前期小説三部作における自己同一性と空間表象の問題—」,日本フランス語  
フランス文学会(於中央大学),2009年5月23日.
- 島貫葉子(専門研究員)「サミュエル・ベケットの演劇作品における女性のイメ  
ージ」,国際シンポジウム「女性・ヒロイン・社会」(於岩手大学),2010年  
9月5日.
- 荒川恒治(D C)「形容詞「深い」”profond”と発話主体の評価について」,第5回東  
北フランス語研究会(於東北大学),2008年9月6日.
- 荒川恒治(D C)「形容詞 *profond* の抽象的意味の分析」,日本フランス語フラン  
ス文学会(於中央大学),2009年5月23日.
- 廣松勲(D C)「忘却,痕跡,創造的想起—P. シャモワゾーの『独房での日曜  
日』を中心に」,日本フランス語フランス文学会(於岩手大学),2008年  
11月8日.
- 廣松勲(D C)「ケベック州のフランス語について」,第58回東北大学フランス  
語学フランス文学研究会(於東北大学),2009年6月19日.
- 廣松勲(D C)「亡命と「非-場所」—エミール・オリヴィエの小説『パッサー  
ージュ』を中心に—」,日本フランス語フランス文学会東北支部大会(於山形  
大学),2009年11月28日.
- 廣松勲(D C)「La Correspondance avec les éditeurs - Histoire éditoriale des œuvres  
littéraires d'Émile Ollivier - 」,ケベック文学及び文化・大学間研究所(CRILCQ)  
主催研究会(於モントリオール大学),2011年2月.
- 廣松勲(D C)「Énigme de l'enracinement dans *La Brûlerie* d'Émile Ollivier」,UNIFA  
(Université Francophone d'Asie)(於日仏会館),2011年10月1日.
- 深井陽介(D C)「"L'écriture du rêve dans Une Saison en enfer"」,colloque du centre  
d'études multiculturelles,(於パリ国際大学都市日本館),2008年10月.
- 深井陽介(D C)「『地獄の季節』「錯乱I—狂った処女—」における多声構造」  
日本フランス語フランス文学会(於中央大学),2009年5月23日.
- 深井陽介(専門研究員)「僧服の下の心—『地獄の季節』のプロトタイプについて」,  
日本フランス語フランス文学会(於一橋大学),2011年5月28日.

深井陽介（専門研究員）「『イリュミナシオン』自伝的作品群における「私」と語りの構造」, 日本フランス語フランス文学会（於小樽商科大学）, 2011年10月8日.

深井陽介（専門研究員）「ランボアの「民主主義」を解読する」, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会（於弘前大学）, 2011年11月12日.

翠川博之（専門研究員）「倫理のパラドクスと回転装置」, シンポジウム「サルトルのモラル論 人間, 他者, 歴史をめぐって」(東北大学大学院文学研究科フランス語学フランス文学研究室主催)（於東北大学）, 2009年10月9日.

翠川博之（専門研究員）「*Cahiers* における主体の能動性と受動性」, 日本サルトル学会ワークショップ「*Cahiers pour une morale* を読む」(於関西学院大学), 2009年12月5日.

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

廣松勲（DC）「日本フランス語フランス文学会 2011年度学会奨励賞」  
(対象論文「Remémoration créative de Patrick Chamoiseau - La description du « non-espace » dans *Un Dimanche au Cachot*」), 2011年5月29日.

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2007年度 学部2名：ストラスブール大学（フランス）, 大学院4名：パリ第四大学（フランス）, モントリオール大学（カナダ）, パリ第一大学（フランス）, レンヌ第二大学（フランス）

2008年度 大学院1名：ストラスブール大学（フランス）

2009年度 学部1名：ストラスブール大学（フランス）

2010年度 大学院1名：ジュネーブ大学（スイス）

2011年度 学部2名：ストラスブール大学（フランス）, リヨン大学（フランス）, 大学院2名：リヨン高等師範学校（フランス）

#### 5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
07	1	0	1
08	1	0	1
09	1	0	1
10	1	1	2
11	0	0	0
計	4	1	5

## 6 社会人大学院生の受け入れ状況

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	1	0	1
10	0	0	0
11	0	0	0
計	1	0	1

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

2008年度 辻野稔哉 秋田大学 准教授

2010年度 島貫葉子 東北大学 助教

2011年度 宮本直規 東北学院大学 准教授

計 3名

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

2011年度 中高教員 1名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

ヨン・ジャイサン, 昌原大学(大韓民国), 教授(2009年11月~2010年4月)



## 10 刊行物

『フランス文学研究』，東北大学フランス語フランス文学会，年刊

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

- |          |  |
|----------|--|
| 2007年12月 | 日本フランス語フランス文学会東北支部大会開催   |
| 2007年12月 | シンポジウム「生成論」（今井勉，佐藤伸宏，司会：阿部宏）   |
| 2008年1月  | シンポジウム「ソーシャル150年 —新手稿・主体・時間・人称・倫理—」（小野文，松澤和宏，翠川博之，阿部宏，山本史華，オーガナイズ：阿部宏，司会：今井勉）  |
| 2008年8月  | 赤羽研三氏講演会「ヴァーチャルな体験としての小説」（司会：阿部宏）  |
| 2009年2月  | 金澤忠信氏講演会「ソーシャルの世紀末」（司会：阿部宏）  |
| 2009年4月  | Antoine Compagnon 氏講演会「Le roman photographique d'aujourd'hui」（司会・通訳：今井勉）   |
| 2009年6月  | Philippe Berthier 氏講演会「Stendhal et Racine」（司会：阿部宏）   |
| 2009年9月  | Colloque international Orients de Marguerite Duras（オーガナイズ：Yann MEVEL，今井勉）  |
| 2009年10月 | シンポジウム「サルトルのモラル論 人間・他者・歴史をめぐる」（澤田直，竹本研史，水野浩二，翠川博之，オーガナイズ：翠川博之，司会：島貫葉子）   |
| 2010年3月  | Michel Deguy 氏講演会「Comment j'ai écrit certains de mes poèmes」，（翻訳・解説：今井勉）[東北大学高等教育開発推進センター，アリアンスフランセーズ仙台，在日フランス大使館との共催] |
| 2010年6月  | Dominique Rabaté 氏講演会「窓は，開けるか もしくは閉めねばならぬ」[東北大学大学院情報科学研究科との共催]   |
| 2010年10月 | Lise Gauvin 氏講演会「La francophonie littéraire : un archipel en devenir」（司会・通訳：廣松勲）                                       |
| 2010年10月 | Michel Murat 氏講演会（司会・通訳：今井勉）   |
| 2011年2月  | Samuel Beckett セミナー( François Noudelmann 氏ほか)(司会：ヤン・メヴェル)  |
| 2011年10月 | Dany Laferrière 氏講演会（司会・通訳：廣松勲）  |
| 2011年10月 | Jean-Luc Steinmetz 氏講演会（司会・通訳：今井勉）   |

- 2011年10月 Darwin Smith 氏講演会（司会・通訳：黒岩卓）  
2011年10月 Bruno Clément 氏講演会（司会：ヤン・メヴェル）  
2011年12月 シンポジウム「古い文学とわたしたち」（小栗栖等，黒岩卓，  
岩下綾，千川哲生）（司会：黒岩卓）

## 1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

### 1) フランス語学フランス文学研究会（専攻分野内研究会）

#### 2007年度

第45回：2007年5月25日．第46回：2007年6月29日，第47回：2007年7月30日，第48回：2007年9月27日．第49回：2007年11月6日．第50回：2007年12月6日．

#### 2008年度

第51回：2008年4月25日．第52回：2008年5月30日，第53回：2008年6月27日．第54回：2008年9月26日．第55回：2008年11月14日．第56回：2008年12月12日．

#### 2009年度

第57回：2009年4月24日．第58回：2009年6月19日．第59回：7月24日．第60回：2009年10月16日．第61回：2009年11月28日．第62回：12月11日．

#### 2010年度

第63回：4月23日．第64回：5月21日．第65回：6月25日．第66回：7月30日．第67回：9月24日．

#### 2011年度

第68回：5月20日．第69回：6月24日．第70回：7月29日．第71回：9月26日．第72回：10月28日．第73回：11月25日．

### 2) 東北フランス語研究会

#### 2008年度

第5回東北フランス語研究会（於東北大学）：

川島浩一郎（福岡大学）「固有名詞と冠詞について」； 宮本直規（東北大学 DC）「提示(voilà, il y a)の2次的叙述と現在分詞」； 阿部宏（東北大学）「主観性の日仏対照」； 酒井智宏（慶應義塾大学）「トートロジーと全称命題」； 荒川恒治（東北大学 DC）「形容詞「深い」«profond»と発

話主体の評価」，2008年9月6日。

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

阿部宏教授（フランス語学，対照言語学），今井勉教授（フランス文学，クレオール文学），ヤン・メヴェル准教授（フランス文学，フランス地域文学），黒岩卓准教授（フランス中世文学演劇，フランス語史），島貫葉子助教（フランス文学，フランス語教育学）の4名が専攻の研究・教育活動に従事している。スタッフ数は少ないながら，専門領域においてヴァリエーション豊かでバランスに富んだ陣容であり，その研究対象も従来の狭い意味でのフランス文学・語学研究の領域を超えたものとなっている。また，教員スタッフ全員が博士号を取得している。

スタッフ間の学問的関心は相互に有機的に重なり合う面も多く，研究面での情報交換は大学院生や卒業生も交えて常に活発に行われている。世代の違いを超えて，教員，大学院修了者，大学院生，学部生間の交流が密で一体感があるのは，東北大仏文の伝統であり，研究室は常に知的な刺激に満ちた場となっている。

教員は，国内学会のみならず，国際学会での発表や司会，海外研修，海外誌への執筆を積極的に行っており，講義や内部の研究会等を通じてその成果を院生に披露することを常に心がけている。また，他大学での集中講義，公開講座，講演会の講師を担当し，自らの研究内容を精力的に外部に発信することに努めている。教育活動は専門領域にとどまらず，文学部1年対象の講義，学部1，2年対象の全学教育にも積極的に関与し，後者において全学部の学生にフランス語の基礎文法，講読，作文，会話などを教えると同時に，前者においては初学者にフランス文化の面白さを伝え，フランス語教育の裾野を広げる努力を行ってきた。さらに，当専攻分野では，外国人研究者，作家などを招いての講演会やコロック，あるいはフランス語教育，フランス文学，フランス語学関連のシンポジウムを頻繁に開催し，スタッフのみならず院生・学部生，東北圏の研究者にも研究の最前線に触れる機会を提供している。

学外の活動としては，日本フランス語学会編集委員・運営委員・学会誌編集長，日本フランス語フランス文学会編集委員など，全国学会で主要な役職を担当してきた。

学部学生の卒業論文は現代文学，近代詩，語学研究といった伝統的領域での研究が大部分を占めるが，ここ数年の傾向として映画，雑誌，料理等の文化表象一般にも関心が広がっている。近年，学生の関心にあわせて多様な講義を提供してきた効果が現れていると言えるだろう。

大学院は定員が各学年，修士2名，博士1名と小規模である利点を生かして，論文執筆，研究発表の予行練習など，綿密な指導を日常的に施している。院生は概して論

文執筆や研究発表に積極的で、前期課程の段階から論文を発表する者もあり、後期課程ではほぼ全員が日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会など全国規模の学会での発表を経験している。査読を通過し、学会誌に原稿が掲載される例も増えつつある。

また、大学院在学者のほぼ全員がフランス留学を経験している。かつてはフランス政府給費やロータリー財団奨学生としての留学が多かったが、近年は、学内で整備された交換留学制度や日仏共同博士課程などの制度を利用する留学が増加している。留学経験を経て、学会発表をフランス語で行い、論文を仏文で書く者、市役所嘱託の通訳を務めた者などもおり、院生のフランス語運用能力はここ数年で飛躍的に伸びてきている。ルノー財団の奨学生としてフランスで経営学修士を取得し、帰国後、フランス大使館経済部や国際的企業に就職する例もでてきている。当専攻分野での教育活動は、フランス語を生かした高度職業人養成の機能をも果たしつつある。

## 教員の研究活動（2007～2011年度）

### 1 教員による論文発表等

#### 1 - 1 論文

齊藤征雄「フランスの食文化」、『食に見る世界の文化』東北大学出版会 pp.73-116, 2007年4月。

Hiroshi ABE « La locution *encore moins* et l'échelle de probabilité », *Actes du XXIVe Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes*, Max Niemeyer Verlag (Tübingen), Volume 4, pp. 487-494, 2007年9月。

阿部宏「比較文法を批判してソシュールが考えたこと」、『思想』（岩波書店），pp. 52-69，2007年11月号。

阿部宏「トートロジーと主観性について」、『日本認知言語学会論集』第8巻，pp. 212-222，2008年5月10日。

Hiroshi ABE « La tautologie et la notion subjective de “désirabilité” », *Current Issues in Unity and Diversity of Languages, Collection of the papers selected from the 18th International Congress of Linguists held at Korea University in Seoul on July 21-26*, Published by The Linguistic Society of Korea., Printed by Dongnam Publishing Co., pp. 3266-3278, 2009年2月25日。

阿部宏「日本語における「望ましさ」概念について」, *Proceedings of the International Conference in Japanese Studies; Civilisation of evolution. Civilisation of revolution. Metamorphoses in Japan 1900-2000*, Jagiellonian University,

- Krakow , Poland, pp. 81-94, 2009 年 9 月.
- 阿部宏 「 Au moins , du moins , encore moins と主観性」 , 『フランス語学研究』  
第 44 号 (日本フランス語学会) , pp. 33-48 , 2010 年 6 月 1 日 .
- Hiroshi ABE « A propos de l'hétérogénéité de la phrase contradictoire en français », *Actes du  
XXVIe Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes*, Max  
Niemeyer Verlag (Tübingen), 2011 年刊行予定
- 今井勉 「フランス国立図書館草稿部所蔵『ド・ロヴィラ夫人関連資料』——解  
読と翻訳の試み——」 翻訳篇 (下) (恒川邦夫・塚本昌則との共同作業) ,  
『ヴァレリー研究』第 4 号 (日本ヴァレリー研究会) , pp. 59-71, 2007 年.
- Tsutomu IMAI « Repenser l'incipit », *Valéry et Léonard : le drame d'une rencontre,  
Genèse de l'Introduction à la méthode de Léonard de Vinci*, Christina Vogel (éd.),  
Peter Lang, Frankfurt am Main, pp. 85-95, 2007 年 .
- 今井勉 『ポール・ヴァレリー文明論テキストの生成論的研究』 平成 17~19 年  
度科学研究費補助金研究 (基盤研究 (C)) , 研究代表者今井勉 , 課題番号  
17520143 ) 研究成果報告書 , 96 p., 2008 年 3 月.
- Tsutomu IMAI « Au-delà de l'eurocentrisme – Valéry est-il possible dans le contexte  
postcolonial ? – », *Paul Valéry « Regards » sur l'histoire*, Études réunies par Robert  
Pickering, Presses Universitaires Blaise-Pascal, Clermont-Ferrand, pp. 211-220,  
2008 年.
- 今井勉 「ライオンとヒツジのあいだ」 , 『仏語仏文学研究』第 42 号田村毅先生  
退官記念特集号 (東京大学仏語仏文学研究会) , pp. 145-154. 2011 年 5 月 .
- Yann MEVEL « Lire Beckett avec Starobinski », *Journal of Beckett Studies*, Vol.  
16, No. 16, “Transnational Beckett”, sous la direction de S. Gontarski, Florida State  
University Press, 2007 年 .
- Yann MEVEL « Mille et une nuits. Poétique de la nuit chez S. Beckett », *Le Nouveau  
Roman en question : vers une écriture des ruines, vers une ruine de l'écriture?*, sous  
la direction de J. Faerbder, Minard, 2008 年 .
- Yann MEVEL « Beckett et le devenir du paysage, Beckett et les quatre éléments »,  
*Samuel Beckett Today / Aujourd'hui*, sous la direction de K. Germoni, 2008 年 .
- Yann MEVEL « M. Duras : Nuit(s) de la pensée, esthétique(s) de la nuit », *Duras et la  
pensée contemporaine*, Actes publiés sous la direction d'E. Ahlstedt et C.  
Bouthors-Paillart, Université de Göteborg, Acta Universitatis Gothoburgensis, 2008  
年 .

- Yann MEVEL « *La Grande Beune*, de Pierre Michon : une poétique de l'ambivalence », *De Kafka à Toussaint, Ecritures du XX<sup>e</sup> siècle*, sous la direction de P. Bazantay et J. Cléder, Presses Universitaires de Rennes, 2010 年 .
- Yann MEVEL « Femme(s) en devenir - *Les Années*, d'Annie Ernaux », *Femmes, héroïnes, sociétés*, sous la direction de Makiko Nakazato et Naohiro Kimura, Presses universitaires de Morioka, 2011 年.
- Yann MEVEL « Etre ou ne pas être écrivain ?, Autour de *La Dernière Bande*, de Samuel Beckett », *Impuissance(s) de la littérature ?*, sous la direction d'Eric Benoit et Hafedh Sfaxi, Sud Editions/Presses universitaires de Bordeaux, coll. « Entrelacs », 2011 年.
- Yann MEVEL « Une émanation de la nuit ? – La figure de la femme japonaise dans la littérature de langue française », *Représentations comparées du féminin en Orient et en Occident*, sous la direction de Ch. Meure et M.F. Bosquet, Presses universitaires de Saint-Etienne, 2011 年.
- Yann MEVEL « L'Expérience beckettienne du visage : une ascèse ? », *Samuel Beckett, Enjeux esthétiques*, sous la direction de Llewellyn Brown, La revue des Lettres Modernes, Paris, Minard. A paraître.
- Yann MEVEL « Pierre Michon et la bête humaine », *Pierre Michon écrivain*, sous la direction de Pierre-Marc de Biasi, Agnès Castiglione et Dominique Viart, Paris, Gallimard. A paraître.
- Yann MEVEL « Marguerite Duras et l'ethos humoristique », *Marguerite Duras, le rire dans tous ses éclats*, Actes du colloque international sous la direction de Cécile Hanania (Western Washington University), sous l'égide de la Société Marguerite Duras. A paraître.
- Taku KUROIWA « Le support, la satire et la forme : un examen de la *Sotye nouvelle des Chroniqueurs* (BnF, ms. fr. 17527) », 国際中世演劇学会 (SITM) 第 12 回大会 HP (<http://sitm2007.vjf.cnrs.fr/pdf/s12-kuroiwa.pdf>), 2007 年 4 月.
- 黒岩卓 「アルヌール・グレバン 『受難の聖史劇』における詩作技巧—ユダを例に—」, 『フランス語フランス文学研究』第 93 号 (日本フランス語フランス文学会), pp. 125-138, 2008 年 8 月.
- Taku KUROIWA « Stratégie satirique dans les sotties imprimées : le cas de l'utilisation des octosyllabes à rimes plates », *Le Théâtre polémique français : 1450-1550*, Rennes, Presses universitaires de Rennes, pp. 49-63, 2008 年 9 月.

- Taku KUROIWA *Composer, jouer et diffuser les « parolles polies » - contribution à l'étude de la versification des sotties -*, 博士学位論文(早稲田大学大学院文学研究科), 2009年11月18日学位授与.
- Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH « De l'oral à l'oral : réflexions sur la transmission écrite des textes dramatiques au Moyen Âge », *Médiévales*, 59, pp. 17-40, 2010.
- 黒岩卓 「『我らが主の受難の聖史劇』(サント=ジュヌヴィエーヴ図書館所蔵写本 1131 収録)の孤立詩行の評価について」, 『Nord-est』第4号(日本フランス語フランス文学会東北支部会報), pp. 70-83, 2011年.
- 黒岩卓 「聖王の言葉の再編成—『聖ルイ殿の生涯』における韻文構築原理に関する覚書—」, 『聖地と聖人の東西—起源はいかに語られるか—』(藤巻和宏編), 勉誠出版, pp. 235-253, 2011年.
- Darwin SMITH, Xavier LEROUX et Taku KUROIWA, « Ipotesi sul funzionamento della versificazione nella Passion de saint André », *Teatro religioso e comunità alpine, Atti del Congresso internazionale, Susa – Convento di San Francesco, 14-16 ottobre 2010*, Caterina Agus, Giuliana Gai et Andrea Zonato (dir.), Susa, Centro culturale diocesano di Susa et Università degli studi di Torino, pp. 182-194, 2011.
- Taku KUROIWA « « Le viel jeu » en mouvement : la configuration rimique et métrique des triolets dans les manuscrits du *Mystère de la Passion* d'Arnoul Gréban », *Vers une poétique du discours dramatique au Moyen Âge* (Collection Babeliana 14), Paris, H. Champion, pp. 143-157, 2011.
- Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH « Formes fixes : futilités versificatoires ou système de pensée ? », *Vers une poétique du discours dramatique au Moyen Âge* (Collection Babeliana 14), Paris, H. Champion, pp. 3-25, 2011.
- 翠川博之 「アンガジュマンの由来と射程—主観性からの再起」, 『ポストコロニアル批評の諸相』 岩田美喜・竹内拓史編, 東北大学出版会, pp.201-232, 2008年3月28日.
- 島貫葉子 「*Oh les beaux jours*, de Samuel Beckett - Le personnage de Winnie et l'image de l'oiseau chanteur -」, 国際シンポジウム成果報告論文集『女性・ヒロイン・社会 社会と時代の表象における女性像』, 中里まき子・木村直弘編, pp. 71-80, 2011年2月.

阿部宏 『Nord-Est』 (日本フランス語フランス文学会東北支部会報), 創刊号 (2009年4月20日), 第二号 (2009年5月20日), 創刊号・第二号合併号 (冊子体, 2009年10月5日) 責任編集.

今井勉 『Nord-Est』 (日本フランス語フランス文学会東北支部会報), 第三号 (2010年6月1日), 第四号 (2011年4月15日), 第三号・第四号合併号 (冊子体, 2011年5月25日) 責任編集.

Yann MEVEL *L'imaginaire de Samuel Beckett, de Murphy à Comment c'est*, Rodopi (Amsterdam / New York), 2008年.

Yann MEVEL, co-direction avec Sjef Houppermans (Université de Leyde) et Dominique Rabaté (Université Paris 7), numéro *Filiations beckettiennes* de la revue *Samuel Beckett Today/Aujourd'hui*. 2011年.

Yann MEVEL *Orients de Marguerite Duras, Actes du colloque international*, Rodopi, (Amsterdam / New York). A paraître.

### 1 - 3 翻訳, 書評, 解説, 辞典項目等

阿部宏 「シンポジウム報告・文学・語学テキストのコーパス分析 —フランス語・英語・日本語— (日本フランス語学会シンポジウム)」, 『フランス語学研究』第41号 (日本フランス語学会), pp. 81-93, 2007年6月1日.

阿部宏 「シンポジウム報告・半過去をめぐって (日本フランス語学会シンポジウム)」, 『フランス語学研究』第41号 (日本フランス語学会), pp. 94-101, 2007年6月1日.

阿部宏 「シンポジウム報告・構造主義とは何だったのか」 (日本フランス語学会シンポジウム) (阿部宏・泉邦寿・青柳悦子・加賀野井秀一), 『フランス語学研究』第43号 (日本フランス語学会), pp. 95-100, 2009年6月1日.

阿部宏 「新刊紹介・Larrivee, P. (2008): *Une histoire du sens*, P.I.E. Peter Lang」, 『フランス語学研究』第43号 (日本フランス語学会), pp. 85-86, 2009年6月1日.

阿部宏 「海外報告・The 18th International Congress of Linguists」, 『フランス語学研究』第43号 (日本フランス語学会), pp. 114-115, 2009年6月1日.

阿部宏 「ワークショップ報告・ソシユールと19世紀—自筆原稿への新たな視点」, 『学会ニュース』第133号 (日本フランス語フランス文学会), pp. 4-5, 2009年12月20日

阿部宏 「ワークショップ報告・ソシユールと19世紀—自筆原稿への新たな視点」



- (阿部宏・松澤和宏・金澤忠信・阿部宏) 『Cahier』 5号(日本フランス語フランス文学会), 2010年3月, pp. 4-7.
- 阿部宏 「シンポジウム報告・ことばに主体はどのようにあらわれるか -フランス語学と認知言語学-」(平塚徹・武本政嗣・阿部宏・鍋島弘治朗), 『フランス語学研究』第44号(日本フランス語学会), pp. 101-105, 2010年6月1日.
- 阿部宏 「新刊紹介・Bernard Cerquiglini (2008), *Merci Professeur !*, Bayard」, 『フランス語学研究』第44号(日本フランス語学会), pp. 93-94, 2010年6月1日.
- 阿部宏 「フランス語質問箱(繰り返し表現, *il y a X et X, le X des Xs*)」, 『フランス語学研究』第44号(日本フランス語学会), pp. 127-130, 2010年6月1日.
- 阿部宏 「ワークショップ報告・ダイクシス動詞「行く」と「来る」の日仏対照」(ワークショップ「対比, 非対称性・意味の拡張メカニズム」) 『日本認知言語学会論文集』第11巻, pp. 600-603, 2011年4月16日.
- 阿部宏 「海外報告・第26回国際ロマンス言語学文献学会」, 『フランス語学研究』第45号(日本フランス語学会), pp. 125-126, 2011年6月1日.
- 阿部宏 「書評・「ソーシャル」以前のソーシャル, 「ソーシャル」以外のソーシャル ソシユール原資料研究の試み:小松英輔著『もう一人のソーシャル』, エディット・パルク, 2011」, 『図書新聞』第3026号, 2011年8月13日, 第5面.
- 今井勉 「アントワーヌ・コンパニオン「今日の写真小説」」, 『水声通信』第31号, 水声社, pp. 35-55, 2009年9月.
- 今井勉 「講演会報告:今日の写真小説」, 『フランス文学研究』第30号(東北大学フランス語フランス文学会), pp. 54-55, 2010年2月.
- 今井勉 アントワーヌ・コンパニオン『第二の手, または引用の作業』, 水声社, 576p. (原著 Antoine Compagnon, *La seconde main ou le travail de la citation*, Paris, Seuil, 1979, 408p. ) 2010年3月.
- 今井勉 ルイ＝ジャン・カルヴェ 『言語戦争と言語政策』, 三元社, (共訳者:砂野幸稔, 西山教行, 佐野直子, 中力えり), 担当:第1章, 第2章, 第3章, 第4章. (原著 Louis-Jean Calvet, *La guerre des langues et les politiques linguistiques*, Paris, Hachette, 1999 (Payot, 1987 pour la première édition) (chap. 1, 2, 3, 4). ) 2010年4月.

- 今井勉 ミシェル・ジャルティ「前衛と後衛のあいだのヴァレリー」, 塚本昌則・鈴木雅雄編, 『前衛 とは何か? 後衛 とは何か? 文学史の虚構と近代性の時間』, 平凡社, pp. 72-93. (原著 Michel Jarrety, *Valéry entre avant-garde et arrière-garde*, in *La conception du temps humain et ses métamorphoses dans la littérature française*, Research Project Report Grant-in-Aid for Scientific Research(B) (2), sous la direction de Masanori Tsukamoto, April 2007, p. 449-464. ) 2010年4月.
- 今井勉 「硬質の抒情 詩人ミシェル・ドゥギーの仙台ライブ」, 『水声通信』第33号, 水声社, pp. 13-20, 2010年7月.
- 今井勉 「『海辺の墓地』の死生観」, 人文社会科学講演シリーズV『生と死への問い』, 正村俊之編, 東北大学出版会, pp. 139-176, 2011年1月.
- 今井勉 『フランス文化55のキーワード』(朝比奈美知子・横山安由美編著), 項目執筆(7 第二次世界大戦, 8 EU, 16 現代思想, 18 科学と医学, 36 交通機関, 37 動物, 38 政治, 41 移民, 55 海外県・海外領土), 第5章概説(現代社会の諸問題), ミネルヴァ書房, 2011年4月.
- 今井勉・中村俊直編訳 『ヴァレリー集成』V「《芸術》の肖像」, 筑摩書房, 近刊予定.
- Yann MEVEL Luc Lagier « Hiroshima mon amour », Cahiers du Cinéma – SCEREN-CNDP, 2007.
- Yann MEVEL six articles pour *le Dictionnaire Beckett*, sous la direction de Marie-Claude Hubert, Paris, H.Champion, 2011.
- 黒岩卓 「書評・原野昇編『フランス中世文学を学ぶ人のために』(社会思想社, 2007年)」, *Cahier* 第2号(日本フランス語フランス文学会), pp. 13-14, 2008年9月.
- 黒岩卓 「聖王の奇跡とその観衆—ルイ九世の生涯を主題とする二つの聖史劇」, 『アジア遊学』第115号, 東京, 勉誠出版, pp. 84-87, 2008年10月.
- 翠川博之「書評・山縣熙, 『劇作家サルトル』(作品社, 2009年)」, 『図書新聞』2913号, 4面, 2009年4月11日.
- Yoko SHIMANUKI, « Astronomie », *le Dictionnaire Beckett*, sous la direction de Marie-Claude Hubert, Paris, H.Champion, 2011.

#### 1 - 4 口頭発表

- 齊藤征雄 シンポジウム「米糠をめぐるアジアの食文化」日本国際文化学会・パ

- ネリスト「アジアの文化」(於名桜大学), 2007年7月15日.
- 阿部宏 フランス語談話会「アスペクトをめぐって」(於東京大学), オーガナイズ・司会, 2007年7月14日.
- 阿部宏 「トートロジーと主観性について」, 第8回日本認知言語学会(於成蹊大学), 2007年9月22日.
- 阿部宏 「日本語における「望ましさ」概念について On the notion of «desirability» in Japanese」, The International Conference in Japanese Studies ‘Civilisation of Evolution. Civilisation of Revolution. Metamorphoses in Japan 1900-2000’ Jagiellonian University (Krakow), 2007年10月24日.
- 阿部宏 「ソーシャルの恣意性概念と言語における主観性について」, シンポジウム「ソーシャル 150年 — 新手稿・主体・時間・人称・倫理—」(東北大学大学院文学研究科主催)(於東北大学), 2008年1月25日.
- 阿部宏 「シャルル・バイイの一節をめぐって –au moins, du moins, encore moins と主観性-」, 第246回日本フランス語学会例会(於慶応義塾大学), 2008年4月26日.
- Hiroshi ABE «La tautologie et la notion subjective de “désirabilité”», The 18<sup>th</sup> International Congress of Linguists, Korea University (Seoul) 2008年7月21日.
- 阿部宏 「主観性と文法化・無意味文・省略文」, 「ことばに主体はどのようにあらわれるか: フランス語と認知言語学」(日本フランス語学会・シンポジウム)(於中央大学), 2009年5月23日.
- Hiroshi ABE «Étude contrastive japono-française sur la “désirabilité”», Troisième colloque international de l’Association Française de Linguistique Cognitive (Paris Ouest Nanterre La Défense), 2009年5月27日.
- 阿部宏 「ソーシャルと主体概念」, 「ソーシャルと19世紀 – 自筆草稿への新たな視点」(日本フランス語フランス文学会本会秋季大会)(於熊本大学), 2009年11月8日.
- Hiroshi ABE «A propos de l’hétérogénéité de la phrase contradictoire en français», XXVI<sup>e</sup> Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes (Université de Valence), 2010年9月6日.
- 阿部宏 「ダイクシス動詞「行く」と「来る」の日仏対照」, ワークショップ「対比・非対称性・意味の拡張メカニズム」, 日本認知言語学会・第11回大会(於立教大学) 2010年9月11日.
- Hiroshi ABE «A propos de la subjectivation de l’échelle dans *PLUS QUE*», Quatrième

colloque international de l'Association Française de Linguistique Cognitive (Lyon, Université Lyon II), 2011 年 6 月 24 日 .

阿部宏 「日本語における「XはXでない」型の矛盾文の分析, A analysis of the "X isn't X" type of contradictory sentence in Japanese」, 14th European Association for Japanese Studies International Conference (Tallinn (Estonia), Tallinn University), 2011 年 8 月 25 日 .

阿部宏 「全学教育フランス語の現状と課題」, 「シンポジウム・東北大学における初修外国語教育」(東北大学高等教育研究開発推進センター・教育関係共同利用拠点プログラム)(於東北大学) 2011 年 10 月 13 日 .

阿部宏 「フランス語における矛盾文と疑似矛盾文について」, シンポジウム「否定をめぐって」(フランス語談話会)(於京都大学), 2011 年 11 月 19 日 .

今井勉 「始まりの始まり—『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』冒頭の生成をめぐって」, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会「テキスト生成論シンポジウム: マニユスクリは何を語るか」(於東北大学), 2007 年 12 月 1 日 .

今井勉 「ヴァレリー = ポー / 根源的詩学の探求—ポー『詩学の哲学』とヴァレリー—『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』を中心に—」, 日本ポー学会ポー生誕 200 年記念第 2 回年次大会ワークショップ「19 20 世紀フランス文学におけるポーの影響」(於慶應義塾大学), 2009 年 9 月 20 日 .

今井勉 「ポール・ヴァレリーとレオナルド・ダ・ヴィンチ」, 東北大学英文学研究室『試論』合評会特別講演(於東北大学), 2010 年 10 月 2 日 .

Yann MEVEL « M.Duras : nuit(s) de la pensée, esthétique(s) de la nuit », マルグリット・デュラス国際学会—Marguerite Duras et la pensée contemporaine—(於スウェーデン, Göteborg 大学) 2007 年 5 月 12 日 .

Yann MEVEL « Une communication de la nuit? - La figure de la femme japonaise dans la littérature de langue française », Colloque international Représentations comparées du féminin en Orient et en Occident, Université Saint Denis de La Réunion, sous la direction de M. F. Bosquet et Ch. Meure, 2007 年 .

Yann MEVEL « Oh tout finir? Sur le motif de la disparition dans Je m'en vais, de Jean Echenoz », Le Malaise existentiel dans le roman français de l'extrême contemporain, sous la direction de M. C. Clément et S. van Wesemael, Université d'Amsterdam, 2008 年 .

Yann MEVEL « Etre ou ne pas être écrivain? – Autour de *La Dernière bande* de

- Samuel Beckett », 国際学会 《 Impuissance(s) de la littérature ? 》 ( Université de Gafsa ) 2009 年 4 月 2-4 日 .
- Yann MEVEL « M.Duras : poétique des sensations dans l'œuvre indochinoise », マルグリット・デュラス国際学会 《 Oriens de Marguerite Duras 》 ( 於東北大学 ) 2009 年 9 月 10 日 .
- Yann MEVEL « Femme(s) en devenir. *Les Années d'Annie Ernaux* », 国際シンポジウム「女性・ヒロイン・社会」( 於岩手大学 ), 2010 年 9 月 4 日 .
- Taku KUROIWA « Le support, la satire et la forme : un examen de la *Sotye nouvelle des Chroniqueurs* (BnF, ms. fr. 17527) », 国際中世演劇学会 ( SITM ) 第 12 回大会 ( 於リール第 3 大学 ), 2007 年 7 月 6 日 .
- 黒岩卓 「アルヌール・グレバン『受難の聖史劇』における詩作技巧—ユダを例に」, 日本フランス語フランス文学会秋季全国大会 ( 於関西大学 ), 2007 年 11 月 11 日 .
- Taku KUROIWA « Les rondeaux dans la performance théâtrale : essai de problématisation », 国際研究集会 *Vers une poétique du discours dramatique au Moyen Âge* ( 於トゥーロン=ヴァール大学 ), 2008 年 11 月 14 日 .
- Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH « Formes fixes : futilités versificatoires ou système de pensée ? », 国際研究集会 *Vers une poétique du discours dramatique au Moyen Âge* ( 於トゥーロン=ヴァール大学 ), 2008 年 11 月 14 日 .
- Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH « *Ipotesi sulla funzione del testo drammatico fra scrittura e oralità : il problema dei versi detti « irregolari » nei testi drammatici occitani* », 国際研究集会 *Teatro religioso et comunità alpine* ( 於スーザ教区センター ( トリノ ) ), 2010 年 10 月 15 日 .
- 黒岩卓 「中世演劇の韻文構築原理を巡る諸問題 : サント・ジュヌヴィエーヴ図書館所蔵写本 1131 に収録された諸作品を例に」, 日本フランス語フランス文学会 2010 年度東北支部大会 ( 於秋田大学 ), 2010 年 11 月 13 日 .
- 翠川博之 「構造主義と実存主義—構造と歴史の接点をめぐって」, シンポジウム「ソシユール 150 年 —新手稿・主体・時間・人称・倫理—」( 東北大学大学院文学研究科主催 ) ( 於東北大学 ), 2008 年 1 月 25 日 .

## 2 教員の受賞歴 ( 2007 ~ 2011 年度 )

なし

## 教員による競争的資金獲得（2007～2011年度）

### （1）科学研究費補助金

平成 17～19 年度 研究課題番号 17520143 基盤研究（C）研究代表者：今井勉  
「ポール・ヴァレリー文明論テキストの生成論的研究」（平成 17 年度・直接経費 1,200,000 円, 平成 18 年度・直接経費 1,100,000 円, 平成 19 年度・直接経費 900,000 円, 間接経費 270,000 円）

平成 19～21 年度 研究課題番号 19520323 基盤研究（C）研究代表者：阿部宏「言語における「望ましさ」概念と主観性に関する研究」（平成 19 年度・直接経費 1,000,000 円, 間接経費 300,000 円, 平成 20 年度・直接経費 900,000 円, 間接経費 270,000 円, 平成 21 年度・直接経費 1,000,000 円, 間接経費 300,000 円）

平成 19～21 年度 研究課題番号 07J02848 特別研究員奨励費 研究代表者：黒岩卓「神の歴史と阿呆の歴史-後期中世フランス演劇における世界の記述と詩作技巧」（平成 19 年度・直接経費 1,200,000 円, 平成 20 年度・直接経費 1,100,000 円, 平成 21 年度・直接経費 1,100,000 円）

平成 20～22 年度 研究課題番号 20520274 基盤研究（C）研究代表者：今井勉「ポール・ヴァレリー詩学の生成論的研究」（平成 20 年度・直接経費 1,200,000 円, 間接経費 360,000 円, 平成 21 年度・直接経費 1,100,000 円, 間接経費 330,000 円, 平成 22 年度・直接経費 900,000 円, 間接経費 270,000 円）

平成 20～22 年度 研究課題番号 20520275 基盤研究（C）研究代表者：翠川博之「サルトル演劇に見るモラルの研究」（平成 20 年度・直接経費 800,000 円, 間接経費 240,000 円, 平成 21 年度・800,000 円, 平成 22 年度・1,600,000 円）

平成 22～24 年度 研究課題番号 22720133 若手研究（B）研究代表者：黒岩卓「グレバン作『受難の聖史劇』諸写本の研究—作品伝承と詩作技巧—」（平成 22 年度・直接経費 500,000 円, 間接経費 150,000 円, 平成 23 年度・直接経費 500,000 円, 間接経費 150,000 円, 平成 24 年度・直接経費 500,000 円（見込み））

平成 22～24 年度 研究課題番号 22520292 基盤研究（C）研究代表者：ヤン・メヴェル「サミュエル・ベケットの間文化的研究」（平成 22 年度・直接経費 800,000 円, 間接経費 240,000 円, 平成 23 年度・直接経費 700,000 円, 間接経費 210,000 円）

平成 23～25 年度 研究課題番号 10212549 基盤研究（C）研究代表者：阿部宏「情

報欠落文における主観性介入に関する日仏英対照言語学的研究」(平成23年度・直接経費 1,300,000 円, 間接経費 390,000 円, 平成24年度・直接経費 1,200,000 円, 間接経費 360,000 円, 平成25年度・直接経費 1,000,000 円, 間接経費 330,000 円)

平成23～25年度 研究課題番号 23520360 基盤研究(C)研究代表者: 今井勉「ポール・ヴァレリー芸術論テキストの生成論的研究」(平成23年度・直接経費 1,600,000 円, 間接経費 480,000 円, 平成24年度・直接経費 1,400,000 円, 間接経費 420,000 円, 平成25年度・直接経費 900,000 円, 間接経費 270,000 円)

## (2) その他

なし

### 教員による社会貢献(2007～2011年度)

阿部宏

「ことばとところ」, 宮城県立泉館山高等学校出張講義, 2007年4月27日.  
第25回全国国公立大学対抗相撲大会会長(於仙台宮城野原運動公園),  
2007年5月27日.

国立七大学体育大会 オープン戦・相撲競技 大会委員長(於仙台宮城野原  
運動公園), 2008年8月17日.

今井勉

「地中海賛歌——ヴァレリーの詩『海辺の墓地』を読む」, みやぎ県民大学  
「大学開放講座」, 於東北大学, 2008年9月6日.

「文学都市パリの構造」, 福島県立安積高等学校出張講義, 2009年7月2  
日.

「河野与一とフランス文学」, 宮城県丸森町齋理蔵の講座, 2010年9月4  
日.

「フランス語圏クレオール文芸の問題性」, みやぎ県民大学「大学開放講座」,  
於東北大学, 2010年9月17日.

### 教員による学会役員等の引き受け状況(2007～2011年度)

阿部宏

東北大学フランス語フランス文学会 会長(2004年4月～)

日本フランス語フランス文学会東北支部会誌編集責任者(2008年4月～2009

年 11 月)

日本フランス語フランス文学会 編集委員 (2009 年 5 月 ~ 2011 年 4 月)

今井勉

東北大学フランス語フランス文学会 役員 (1997 年 4 月 ~ ) ; 編集委員長  
(2001 年 4 月 ~ ) .

日本フランス語フランス文学会東北支部会誌編集責任者 (2009 年 11 月 ~ )

ヤン・メヴェル

マルグリット・デュラス国際学会共同主催者:《 Orients de Marguerite Duras 》  
(於東北大学) 2009 年 9 月 9-11 日 .

役職名 : responsable scientifique et intervenant .

黒岩卓

日本フランス語フランス文学会 資料調査委員 (2007 年 6 月 ~ 2010 年 5 月)

東北大学フランス語フランス文学会 役員・編集委員 (2011 年 4 月 ~ )

日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員 (2011 年 5 月 ~ )

翠川博之

東北大学フランス語フランス文学会 役員, 編集委員 (2004 年 4 月 ~ )

## 教員の教育活動

### (1) 学内授業担当 (2011 年度)

#### 1 大学院授業担当

今井勉 教授

1 学期 フランス文学特論 I ヴァレリー初期詩篇研究 (1)

2 学期 フランス文学特論 II ヴァレリー初期詩篇研究 (2)

1 学期 フランス文学研究演習 I 文学テキストの精密な読解 (1)

2 学期 フランス文学研究演習 II 文学テキストの精密な読解 (2)

通 年 課題研究 (フランス語学フランス文学)

ヤン・メヴェル 准教授

1 学期 フランス語学研究演習 Valery Larbaud (1)

2 学期 フランス語学研究演習 I Valery Larbaud (2)

1 学期 フランス文学研究演習 III Patrick Modiano (1)

2 学期 フランス文学研究演習 IV Patrick Modiano (2)

黒岩卓 准教授

1 学期 フランス語学研究演習 V 中世・ルネサンス文学・語学研究 1 (モ



- ンテーニュ『エッセー』)
- 2 学期 フランス語学研究演習 VI 中世・ルネサンス文学・語学研究 2 (リュトブフ)
- 通 年 課題研究 (フランス語学フランス文学)

## 2 学部授業担当

今井勉 教授

- 2 セメスター 人文社会序論
- 3 セメスター フランス文学基礎講読 I 文学テキスト講読
- 4 セメスター フランス文学概論 II フランス文学史通覧
- 5 セメスター フランス文学各論 ヴァレリー初期詩篇研究 (1)
- 6 セメスター フランス文学各論 II ヴァレリー初期詩篇研究 (2)

ヤン・メヴェル 准教授

- 5 セメスター フランス文学演習 III Initiation à l'explication de texte (1)
- 6 セメスター フランス文学演習 IV Initiation à l'explication de texte (2)
- 5 セメスター フランス語科教育法 Langue et culture de la France contemporaine (1)
- 6 セメスター フランス語科教育法 Langue et culture de la France contemporaine (2)

黒岩卓 准教授

- 1 セメスター 人文社会総論
- 2 セメスター 人文社会序論
- 3 セメスター フランス文学概論 I フランス文学史 (古典主義の成立前後まで)
- 4 セメスター フランス文学基礎講読 II マルグリット・ユルスナール『東方綺譚』を読む
- 5 セメスター フランス文学演習 I 中世・ルネサンス文学・語学入門 1 (トリストラン・イズー物語)
- 6 セメスター フランス文学演習 II 中世・ルネサンス文学・語学入門 (フランソワ・ヴィヨン)

島貫葉子 助教

- 2 セメスター 人文社会序論

### 3 共通教育・全学教育授業担当

今井勉 教授

3 セメスター 展開フランス語 I

4 セメスター 展開フランス語 II

ヤン・メヴェル 准教授

3 セメスター 展開フランス語

4 セメスター 展開フランス語

黒岩卓 准教授

1 セメスター 基礎フランス語

2 セメスター 基礎フランス語

#### (2) 他大学への出講 (2007~2011 年度)

今井勉 教授

2008 年度 神戸大学 (集中講義)

島貫葉子 助教

2011 年度 米沢女子短期大学